

平成30年度熊本県「薬と健康の週間」実施要領

第1 目的

「薬と健康の週間」は、医薬品や薬剤師等の専門家の役割に関する正しい知識を広く県民に浸透させることにより、県民の保健衛生の維持向上に寄与することを目的とする。

第2 実施期間

平成30年10月17日（水）から平成30年10月23日（火）までの1週間

第3 実施機関

熊本県、熊本県薬業団体連合会

第4 実施事項

医薬品及び薬剤師等の専門家の役割に関する正しい知識について、県民に対し広く普及を図るため、次の事項に重点を置き、熊本県及び熊本県薬業団体連合会（以下「連合会」という。）は相互に緊密な連携を取り、それぞれの実情に即した運動計画を策定して実施する。

特に、かかりつけ薬剤師、薬局の取組みを各地域で推進し、薬剤師が行う服薬指導や薬歴管理の重要性及びこれらによる県民医療の質の向上を一人でも多くの県民が実感できるように、積極的な運動を展開する。

また、本年度は、第五次薬物乱用防止五か年戦略の策定が予定されていることから、違法薬物対策に関する取組や当該戦略の周知を着実に行う。

1 薬剤師・薬局の役割についての理解を深める事項

(1) 地域住民が、かかりつけ薬剤師・薬局について理解し、積極的に活用できるよう、かかりつけ薬剤師・薬局を持つことによる以下の利点について、普及啓発を図る。

(地域住民がかかりつけ薬剤師・薬局を持つことによる利点)

- a) かかりつけ薬剤師が薬の情報等を一元的・継続的に把握することで、患者が複数の診療科を受診している場合でも、処方された薬の重複や相互作用の防止のほか薬の副作用や期待される効果について継続的な確認を受けることができる。
- b) 休日・夜間を含めた時間外でも、薬の副作用や飲み間違いなど、いざというとき、困ったときに、電話等による相談ができる。
- c) 服用中の薬の飲み忘れや飲み残しで困ったとき、かかりつけ薬剤師に相談することで、薬を適切に使用するためのアドバイスを受けられるほか、飲

み残しの薬（残薬）の問題などを解消することができる。

- (2) セルフメディケーション推進の観点から、かかりつけ薬剤師・薬局としての基本的機能を備えた上で、地域住民の健康の維持・増進を積極的に支援している健康サポート薬局について、その役割と活動状況を積極的に紹介する。
- (3) 薬剤師・薬局は、地域の在宅医療をはじめ、地域包括ケアシステムの担い手の一員であることから、他の医療・介護職種や地域住民に対して、在宅医療等地域包括ケアシステムにおける薬剤師の役割と活動状況を積極的に紹介する。
- (4) 薬剤師・薬局には、後発医薬品に関する説明を適切に行うことが求められていることから、後発医薬品の調剤に必要な体制の確保に努めるとともに、後発医薬品に関する正しい理解・知識を普及啓発する。
- (5) 医療及び公衆衛生面における薬剤師の活動の現状に鑑み、薬剤師の役割についての正しい知識を普及啓発する。

2 医薬品についての正しい知識を普及する事項

- (1) 医薬品は病気や怪我を治すのに役立つ一方、正しく使わなければ副作用により健康を損なうおそれがある等、県民が、医薬品に関する正しい知識と理解を深めることができるように普及啓発する。
- (2) 医薬品について不明な点があれば、医師、薬剤師等の専門家に相談して適切に使用することを普及啓発する。
- (3) 医薬品は、使用期間、用法、用量、保管方法などを守り、使用上の注意を十分に理解し、正しく使用しなければならないことを普及啓発する。

特に高齢者については、肝・腎機能低下のため副作用が起こりやすく、また複数の医療機関・診療科受診による重複投薬、相互作用又は記憶力・注意力低下による誤用等の危険性が高いことから、ポリファーマシー解消の観点も踏まえ、なお一層医薬品の正しい使用を普及啓発する。

また、医薬品の誤飲事故、特に小児による医薬品の誤飲事故の事例が多いとされていることから、医薬品を小児等の手の届かない場所に保管するなど、適切な保管・管理をするよう、患者の家族等への注意喚起も併せて行う。

- (4) 一般用医薬品等の販売制度の周知を通じて、医薬品の適正使用にはそのリスク、副作用等に応じた情報提供や指導等が必要であることを普及啓発する。
- (5) 医薬品の販売等の際、薬剤師等が、患者から健康食品等の摂取状況を聴取し、過剰摂取や医薬品との相互作用等について確認し、患者に対し必要な注意喚起をするなどの取組を行う。
- (6) 要指導医薬品、一般用医薬品の販売ルールの遵守について点検を行う。
- (7) 乱用や過量服用のおそれのある医薬品について購入者に対し必要な注意喚起をするなどの取組を行う。

3 その他、医薬品の安全使用や適正使用等に関する事項

本週間の趣旨を踏まえ、次の事項についても積極的な推進に努める。

- (1) 電子版お薬手帳の活用が重複投与や相互作用の確認等に有益であることを周知し、普及を図る。
- (2) 一般用医薬品のインターネット販売を行っている販売サイトを利用する際には、厚生労働省のホームページで自治体から厚生労働省に報告されたものであることを確認し、安全な医薬品を安心できる販売サイトから購入するよう周知する。
- (3) 医薬品副作用被害救済制度及び生物由来製品感染等被害救済制度について周知する。
- (4) 麻薬、覚醒剤をはじめ、危険ドラッグ等の危険性及び乱用が健康に及ぼす影響を周知し、特に青少年に対する薬物乱用防止の啓発活動を展開する。
- (5) 地域住民に対し、献血への理解を求める普及啓発を行う。
- (6) 医薬品開発について広く国民へ周知し、その中で臨床研究や治験の意義等について普及啓発を行う。

第5 実施方法

1 広報機関等による啓発宣伝

- (1) 熊本県及び連合会は、自己の広報機関を十分に活用するとともに、各報道機関に対しても資料を提供すること等により積極的な協力を求めて、本週間の趣旨を周知する。
- (2) 熊本県及び連合会は、本運動中に実施される講習会等を利用して、リーフレット等の提供を行う。

2 各種催し物等の実施

- (1) 熊本県及び連合会は、講演会、座談会、医薬品相談会、展示会等の催し物を開催して本週間の趣旨を周知する。特に、老人クラブ等関係団体の協力を得て、高齢者及び小児の保護者に対して、医薬品の誤用・誤飲防止等も含め、薬の正しい使い方について啓発活動を行う。
- (2) 熊本県及び連合会は、自らが又は関係団体等が作成した薬の正しい使い方等に関する啓発資材について、その効果的な活用を行うために関係団体等と連携する。
- (3) 連合会は、小地区ごとに薬剤師会等の懇談会を開催する等の活動を通じて、薬剤師・薬局が地域医療に貢献している事例等を積極的に紹介し、かかりつけ薬剤師・薬局の趣旨を広く周知する。
- (4) 連合会は、在宅医療、健康支援などの実施を含めた薬剤師・薬局の社会的役割について啓発活動を行う。

- (5) 熊本県及び連合会は、薬局及び医薬品販売業の適正な在り方及びその社会的な役割について関係者に対する指導研修を行う。
- (6) 熊本県は、「薬局機能情報提供制度」の周知と活用の促進に努める。また、熊本県及び連合会は、地域医療機関、薬局マップの提供、公表に努める。この際、在宅医療に関する事項を盛り込む等、地域住民が自身の望む医療を受けることができる医療機関・薬局を選択するために役立つ情報を盛り込む。
- (7) 熊本県及び連合会は、教育委員会を通じて、児童生徒に対し、学校薬剤師による薬の正しい使い方についての講演等を実施することにより本週間の趣旨を周知しつつ、学校薬剤師による地域活動等を支援する。
- (8) 熊本県及び連合会は、関係者の協力を得て地域住民に対し、献血への理解を求める普及啓発を行うとともに、麻薬、覚醒剤をはじめ、危険ドラッグ等の危険性及び乱用が健康に及ぼす影響について周知し、特に青少年に対する薬物乱用防止の啓発活動を行う。

3 その他

この要領に掲げるもののほか、各種関係機関・団体と連携を取り、相互に協調し、それぞれの実情に即した運動を実施する。